都道府県別賞一等

私達の暮らしと生命保険

愛知県　豊橋市立南陽中学校　三学年

亀山　愛唄

私は、まだ中学生なので正直な所、生命保険について、分かりません。

母に聞いてみたら保険と言っても生命保険だけでなく学資準備のための保険、個人年金と色々あるそうです。私の母は生命保険会社に勤めていて、小さい頃から何度か会社に連れて行ってもらったり、お仕事をしている姿を傍で見てきました。母はいつも会社でも週末でも夜でもお客さんと電話をしたり、私達が寝てからも資格を取るためのお勉強などをしていて、生命保険会社の営業職員ってとても大変なお仕事だなと子供ながらに思ったのを覚えています。

それでも母は、私達の事もしてくれながら家の事もしてお仕事をしています。

私は母に「どうしてこのお仕事をしているの？」と聞いた事があります。母から返ってきた言葉は「あなた達を養うためだよ。それにこのお仕事はたくさんの知識を知る事ができて面白いし、人とお話しができて自分のためにもなるし、人に喜んでもらえる素敵なお仕事だよ。」と。

まだ幼い私には分からなかったんですが、今回それを思い出してこの作文を書く事にしました。

まだ小さかったのであまり覚えていないですが昔、母が涙目で仕事から帰ってきた日がありました。母は、仕事の事を私達の前で話さないので、その時は何があったのか聞いてはいけない気がして聞けなかったんですが、それからしばらくたった日の夜に、リビングから電話をしている声が聞こえてきました。「よかったです。こちらこそありがとうございます。お役に立ててとてもよかったです。」と言っていました。それなのに電話を切った母は小声で泣いていて、流石に心配になり母に「何かあったの？」と聞くと、母は涙声で話してくれました。

母が涙目で帰宅した日にお客さんが亡くなったと。私も会った事がある老夫婦で、とても優しくしてくれるいい人達でした。シングルマザーで子育てをしている母を心配して、よくおじいちゃんおばあちゃんの作っている野菜やお菓子をくれました。亡くなってしまった理由は、病気と年齢的なものだと母は言っていました。あれだけ優しく関わってくれたおじいちゃんが亡くなりとても辛かったのを覚えています。でも、電話の内容は、お礼を言われている感じだったので気になり、その理由を聞くと「何もできなかったのにお礼を言ってくれたんだよ。これは嬉し泣きだから心配しないでね。おじいちゃん達ね、とても苦労してきた人で、だから私達の事も心配して優しくしてくれるんだよ。でもおじいちゃん

少し前から体調がよくなくて、おばあちゃんや子供に苦労をかけたくないって死亡保険をかけてたの。特に苦労をかけてきたおばあちゃんが困らないようにしたいって。おばあちゃんはそのお金で自宅をリフォームして子供さんとお孫さんと一緒に住めるようになったと電話をくれたんだよ。」と言ってました。

母の仕事が感謝される仕事だと初めて知った瞬間でした。

父と母が離婚した時に母が「もしお母さんに何かあった時はお母さんの死亡保険金はあなた達が受け取れるようになっているから安心しなさいね。それで何かあっても学校に通えるからね。」と。今は当たり前の生活もいつ何があるか分からないし他人事ではない。もし母に何かあったらと考えると怖いし想像もつきません。

生命保険は病気になった時に必要なくらいだと思っていたんですが、それだけでなく人に感謝される物だと知りました。

私もたくさんの愛を貰ってここまで成長できたと思います。世の中はどうしても形あるものに対して目を向けてしまいますが今回の作文を通して、生命保険という形がなく目に見えない物ほど人と人との繋がりや絆を生む事が大切であると考えます。愛と感謝の気持ちを持ち今後の人生を歩んでいきます。